

地域がん診療連携拠点病院

長野赤十字病院 がん治療のご案内



がんと向き合わなければならなくなった時
私たちは、がん患者さんとそのご家族を
チームでサポートします



地域がん診療連携拠点病院

長野赤十字病院



ごあいさつ

現在、日本人が生涯のうちにがんにかかる可能性は、男性の2人に1人、女性の3人に1人と推測されていますが、実際にご自分ががんと診断を受けた患者さん、およびそのご家族の皆様の心労は大変なものがあるとお察し申し上げます。近年、がんの治療は手術・放射線治療・化学療法のいずれかが主となり、場合によってはその組み合わせにより、治療成績の進歩は目覚ましいものがあります。その結果、治癒する患者さん方が増えてきています。しかし、今後の生活の不安も含め、多くの心配ごとがあると思われまます。

長野赤十字病院は平成19年1月に厚生労働省より地域がん診療連携拠点病院に指定され、各種ガイドラインに基づいた標準的かつ最新の治療を提供すべく日々努力しています。また患者さんやご家族の心配ごとを何でも相談していただくためにがんサポートセンター内にがん相談支援センターを設置しいつでも相談を受けられる体制をとっていますので、治療方針はもとより治療費や療養上お困りのことがありましたら、何でもお気軽にご相談ください。主治医を中心に、サポートセンタースタッフ、看護師など職員が一丸となって皆様をサポートいたします。また院内には同じ病気の仲間が集うサロン「陽だまり」があり、患者さんどうし悩みを共有し励ましあっています。

私たち職員一同皆様のお気持ちに寄り添いサポートいたします。皆様のがんと歩む日々がより穏やかとなることを心より願っています。



長野赤十字病院
院長 小林 光

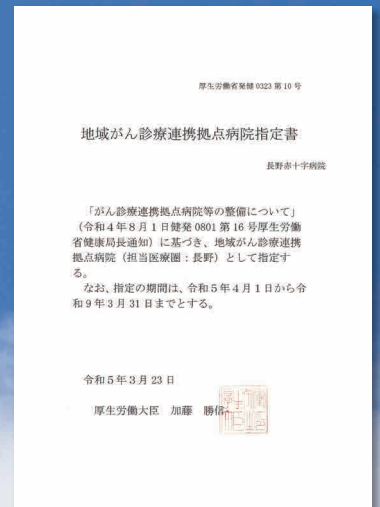


地域の医療機関との連携

長野赤十字病院は地域がん診療連携拠点病院として
質の高いがん医療を提供できるよう
地域の医療機関との連携協力体制の構築に努めています
特に地域がん診療病院であるJA長野厚生連 北信総合病院とは
グループ指定を受けており密に連携をとりながら診療にあたっています

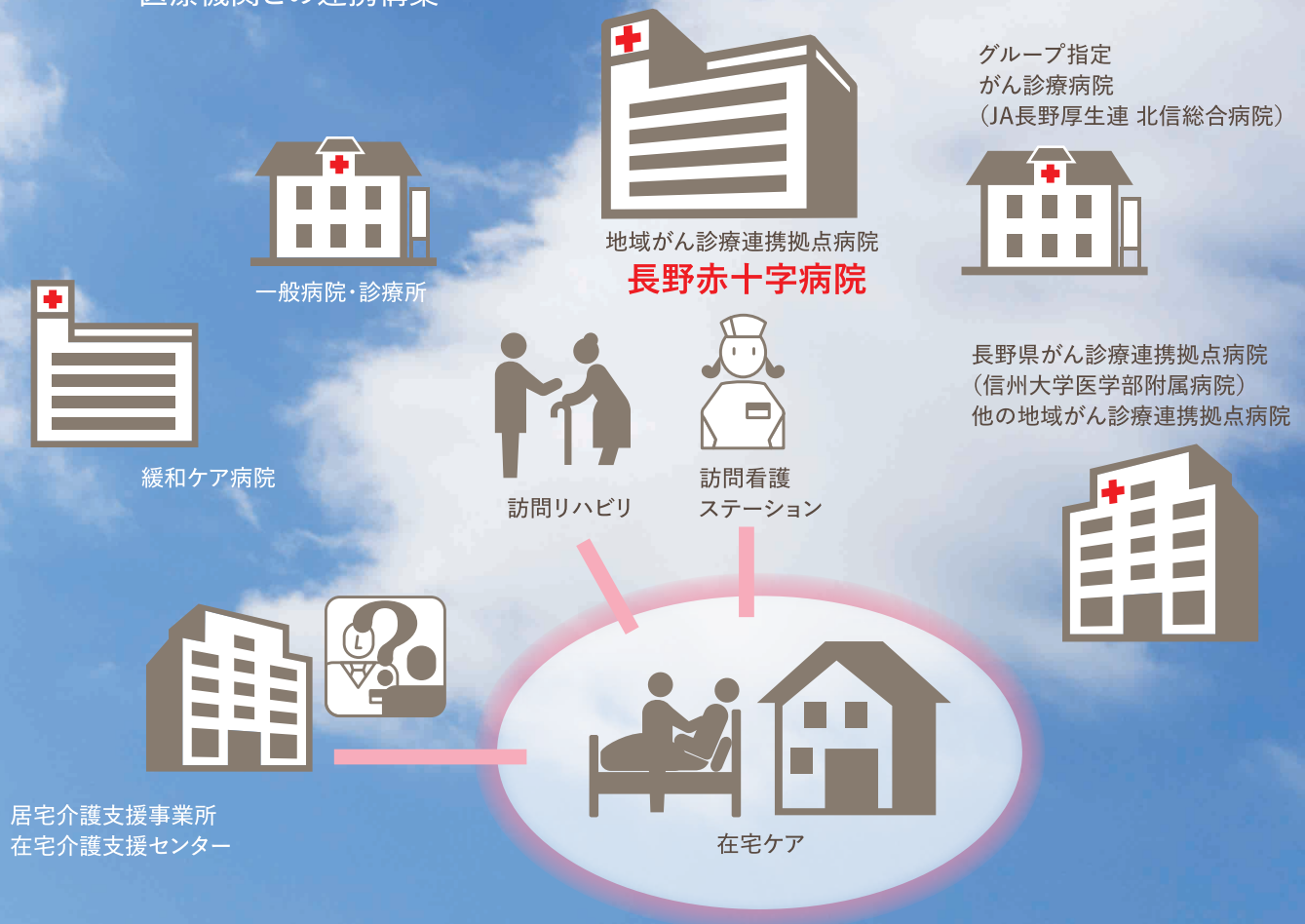
国は、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、
地域がん診療連携拠点病院や地域がん診療病院等を指定しています。

拠点病院は、専門的・標準的ながん集学的治療(手術、抗がん剤、放射線などの組み合わせ)の実施、緩和ケアの提供、病院と病院・病院と診療所の連携、情報提供(講演会の開催など)、がん相談支援センターやセカンドオピニオン外来の設置、がん登録、専門スタッフの配置などの役割を担っています。



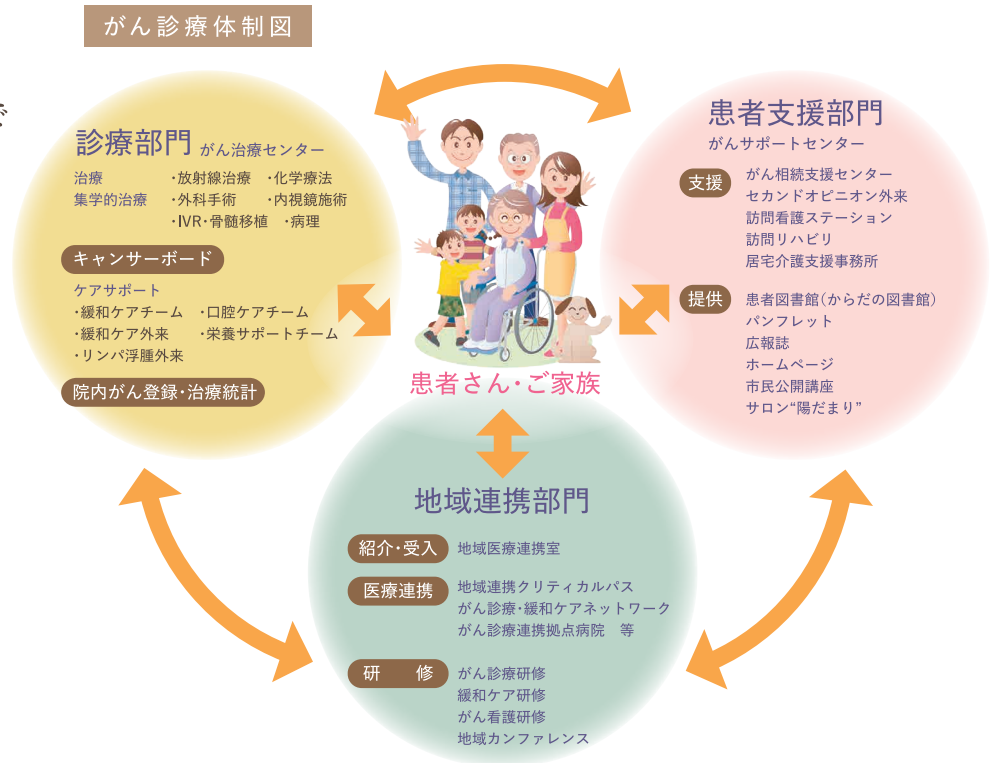
期間満了に伴い更新審査を受け、令和5年4月1日付で再指定を受けました。

医療機関との連携構築



がん診療体制

3部門で構成するがん診療体制で
一貫性のあるがん診療を提供し、
がん患者さんとそのご家族を
がんと診断された時から
チームで支援します。



がんの診断・治療

日本に多い代表的ながんに対して、以下のように診断、治療を行っています。

胃がん

胃がんかどうか調べるには上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)を行います。必要に応じて生検(病変の一部をとること)を行い、生検組織を顕微鏡で調べる病理検査で胃がんであるか診断されます。血液検査(貧血、腫瘍マーカーなど)も必要です。胸・腹部レントゲン、腹部超音波、腹部CT、

PETなどの検査を行い、病期診断(がんの進行度評価)を行います。早期胃がんには内視鏡的切除(EMR、ESD)を積極的に行っています。腹腔鏡を用いた手術や開腹手術、症例に応じて化学療法(抗がん剤治療)も積極的に行っています。

肺がん

肺がんかどうか調べるには、胸部CTを行い、その後に気管支鏡検査、CTガイド下生検、局所麻酔下胸腔鏡検査などにより病理検査を行い診断します。さらにPET、頭部MRIによって病期診断(がんの進行度評価)を行い、内科治療(分子標的薬、化学療法、放射線治療、緩和医療)や外科治療(腹腔鏡下手術、開胸手術)を適切に選択します。内科治療を行う場合にはがん

細胞の遺伝子変異検索が非常に重要ですが、当院は院内で検査が可能であり、治療までの時間が大きく短縮されています。また、国立がん研究センター東病院に協力してLC-SCRUM JAPANプロジェクトに参加しています。保険診療では不可能な遺伝子変異検索や治験への積極的な参加により、いわゆるプレジジョン・メディシンによる個別化医療を実践しています。

大腸がん

大腸がんがあるか調べるには大腸内視鏡検査(大腸カメラ)を行い、必要に応じて生検を行います。注腸造影、腫瘍マーカー、胸・腹部レントゲン、腹部超音波、CT、MRI、PETなどの検査も行います。治療方針は病期診断(がんの進行度評価)に基づいて決まります。内視鏡的切除(EMR、

ESD)、腹腔鏡下手術、開腹手術が選択されます。放射線治療や化学療法を行うこともあります。

肝がん

肝がんかどうか詳しく調べるには、超音波、CT、MRIなどの画像検査と腫瘍マーカーを組み合わせを行います。必要があれば、血管や病巣の状態を調べる血管造影検査や生検を行うことがあります。治療は肝切除術(外科手術)、経皮的局所療法(ラジオ波焼灼術)、肝動脈塞栓療法、放射

線治療法、化学療法(抗癌剤や分子標的薬)などがあります。病変の数や大きさなどとあわせて肝予備能や他の臓器の状態などを決め方針を決め治療にあたっています。長期的な管理が必要なため地域の先生方と連携し治療を進めています。

乳がん

乳がんかどうか詳しく調べるには、視触診、マンモグラフィ、超音波、CT、MRI、PET、細胞診、針生検、マンモトーム生検などの検査を組み合わせを行います。乳がんは比較的小さい時期からリンパや血液の流れに乗って肺、肝臓、骨などに小さな転移巣を作ると考えられています。その

ため、病期診断(がんの進行度評価)に応じて外科治療、放射線治療、化学療法を組み合わせた治療を行います。美容にも配慮した手術を形成外科と協力して行っています。



がん治療センター

化学療法、放射線治療、手術等、総合力で裏打ちされた高度ながん集学治療を提供できる体制を整備しています。

化学療法

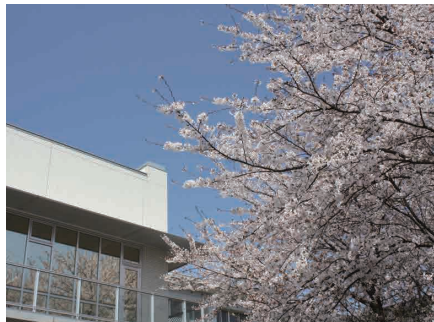
外来化学療法室では、多くの患者さんが自宅で普段の生活を続けながら、外来での化学療法を受けていらっしゃいます。

従来は入院治療が中心だった化学療法ですが、新しい治療薬や副作用に対する対処法の進歩により、個々の患者さんの生活ペースに合わせた外来治療が可能になってきました。

当院の外来化学療法室は平成18年4月にベッド数8床で開設しましたが、現在はリクライニングチェア8台、ベッド15床に拡充しています。(令和7年1月現在)

安全で質の高い化学療法を提供するため、各領域の専門医、がん専門薬剤師、がん化学療法看護認定看護師らが参加する委員会を毎月開催しています。当院で行われているすべての化学療法は委員会でそのエビデンスレベル、認定レベルを評価して認証されたもので、抗がん剤処方や監査のシステムを整備して薬剤投与量、スケジュールを正確に管理しています。

安心して快適に治療を受けていただけますよう、専従の医師、薬剤師、看護師を配置して化学療法の更なる充実を図っています。



外来化学療法室からは春にさくらがとてもきれいに見られます。



手術

最新の治療環境のもと、確かな医療技術を提供しています。

全11室の中央手術室には最新の手術装置が整備されています。令和6年には6,573件(うち全身麻酔3,439件)の手術が行われました。現在、麻酔科医は9名(うち8名は麻酔科専門医)が麻酔管理を担当しています。緊急手術にも対応しています(当院は急性期充実体制加算を取得、要件・緊急手術決定から24時間以内の全身麻酔350件以上)。

当院では手術支援ロボット(2台体制)にて、前立腺、腎部分、膀胱、胃・大腸手術、肺手術、婦人科手術も行い、良好な治療成績を収めています。

【大腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、前立腺がん、肝臓がん、胆のうがん、胆管がん、すい臓がん等、手術件数は病院ホームページ各診療科欄、診療実績参照】



ダ・ヴィンチ

病理診断

採取された組織や細胞から、がんなどの病気を診断します。

また、がんゲノムプロファイリング検査を行えるように

適正な検体の管理を行っています。

生検や手術等により採取された組織や細胞から標本を作製し、顕微鏡で観察して、良性・悪性の鑑別、がんの種類、病変の広がりなど形態的な診断を行います。

また、近年では病理組織を用いた遺伝子検査やがんゲノムプロファイリング検査が急速に広まっており、各検査を行うにあたり重要となる核酸(DNA,RNA)の品質を良好に保つよう迅速かつ適正な検体処理・管理を行っています。



放射線治療

放射線治療とは、放射線を照射することでがんを治したり症状を緩和したりする治療です。がんに対して集中して照射するため副作用は少なく、通院でがんの治療ができます。

当院では、からだの外からエックス線や電子線を照射する外照射と、放射性薬品を投与してからだの中から照射するラジオアイソトープ治療（内用療法）が施行可能です。

外照射は平成28年からライナック治療装置2台体制となり、多くの方に画像誘導放射線治療（IGRT）を併用した高精度放射線治療が提供できるようになりました。がんの広がりに合わせて複雑な形で適切な量を照射する強度変調放射線治療（IMRT）や、小さながん病巣に集中して高線量を照射する定位放射線治療（脳定位放射線治療、体幹部定位放射線治療）は、前立腺癌や頭頸部癌、脳腫瘍をはじめ、多くのがんの治療に効果を発揮します。

ラジオアイソトープ治療では、甲状腺癌に対するヨード内用療法、前立腺癌骨転移に対するラジウム内用療法を行っています。

安全に質の高いがん治療を提供するため、放射線治療専門医3名、放射線治療専門放射線技師3名、放射線治療品質管理士3名、医学物理士2名を配置し、看護師、医療事務を含めたチーム全体で治療にあたります。



第二ライナック室 ノバリスTx



第一ライナック室 VersaHD

放射線診断

診断体制の充実強化を図るため、最新鋭の医療機器を導入。

2台のCT（コンピューター断層撮影）、2台のMRI（磁気共鳴画像）、1台のガンマカメラによって全領域の画像診断を行っています。ガンマカメラでは、骨シンチ、ガリウムシンチなどの各種シンチグラム、脳や心筋などのSPECT/CT検査を行っています。高い精度や3次元での画像構成と放射線科専門医による読影で、信頼性の高い画像診断を行っています。令和7年6月に最新MRI撮像装置、および同年度中に半導体検出器を利用した最新のPET撮影装置へ更新。

また、当院では地域の医療機関からの検査依頼を積極的に受け入れており、患者さんの要望に応えられるよう努力しています。



CT



PET/CT

他の機能

キャンサーボード

キャンサーボードとは、がん患者さんの症状・状態及び治療方針等を共有・検討・確認等するためのカンファレンス（検討会）のことをいいます。当院では、異なる専門性を持つ専門医が定期的に一堂に会して、一人ひとりの患者さんに合った最善の治療方針を検討しています。



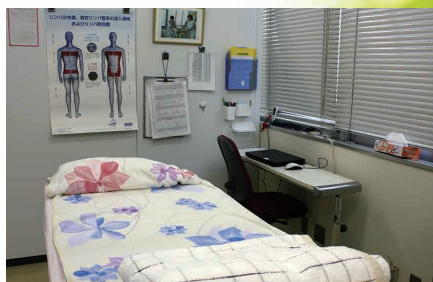
骨髄移植センター

白血病などの血液がんをはじめとした難治性血液疾患に対し、造血幹細胞移植医療を提供するため、骨髄移植センターが平成10年に開設されました。平成13年より骨髄移植推進財団の認定移植施設、臍帯血移植ネットワークの認定施設となり、骨髄バンクおよび臍帯血バンクからの移植も行っています。地域で必要とされる最新の血液疾患医療を提供できる体制をとっており、全国的にも高い評価を受ける治療センターとなっています。



リンパ浮腫チーム・リンパ浮腫外来

リンパ浮腫とは、がんの手術でわきの下や足の付け根のリンパ節を切除することで、リンパの流れが悪くなり、リンパ液が皮下にたまる状態です。治療ですでに脚や腕にリンパ浮腫がある方、まだ腫れていないがだるいなど徴候がある方を対象にリンパ浮腫の予防・改善に努めています。医師、看護師、理学療法士、作業療法士が連携をとりチームでサポートします。



口腔ケアチーム

がんの治療は、その副作用として正常な細胞にも悪影響を与えます。化学療法や口腔周囲に放射線治療を行うと、口腔粘膜炎、虫歯・歯周病（今あるものが悪化したり新たに発症）、口腔内乾燥、味覚障害（食べ物の味が変わる）などの合併症が起こりやすくなります。口腔内の合併症は、治療の継続を困難にしたり、食事を摂りにくくし、体力低下や感染の危険を引き起こします。口腔ケアチームは、歯科医師、看護師、歯科衛生士、言語聴覚士で構成され、がんおよびがんの治療に伴う様々な合併症に対し予防的、継続的、指導的にかかわり生活の質を高めるよう支援します。



栄養サポートチーム

がんの治療中は、手術後の体重減少、抗がん剤治療・放射線治療の副作用（食欲不振や味覚障害等）に伴う症状、がんの進行等により栄養障害を伴います。栄養不良の状態が続くと免疫力の低下や筋力低下などによる感染症が起こりやすくなります。栄養サポートチームは、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、歯科衛生士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士など多職種で構成され、栄養管理を必要とする患者さんをチームでサポートします。



研修体制

がん診療研修

がん医療に携わる地域の医療従事者を対象とした、診断、治療に関する研修を定期的に開催しています。

緩和ケア研修

すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得することを目的とした緩和ケア研修会を、平成20年から毎年実施しています。





がんサポートセンター

がん情報の提供、さまざまな相談への対応、痛みや気持ちのつらさの緩和などにより、がん患者さんとご家族を支えます。

緩和ケアチーム(PCT)

地域がん診療連携拠点病院の役割として平成18年より緩和ケアチームを立ち上げ、活動を行っています。

がん(悪性腫瘍)や心不全をはじめとする痛みやその他つらい症状を緩和し、日常生活、社会生活の質を高めるよう、入院・外来を通じて、継続的に支援を行うチームです。医師・看護師・薬剤師・臨床心理士・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・医療ソーシャルワーカーにより構成されています。「緩和ケアチームのサポートを希望します」と主治医または看護師にお伝え下さい。



緩和ケア外来

外来通院されているがんと診断された患者さんの、痛みやその他のつらい症状について各診療科と連携をとりながら症状を緩和し日常生活や社会生活の質を高めるよう支援していきます。化学療法や放射線療法など治療と並行して受けることができます。

痛みなどの症状は、身体的な問題のほか、不安や気持ちの落ち込みなど心理社会的な問題も大きく関係することがあります。

こうした様々な問題に関しては早期から、家族の方も含めたカウンセリング、社会的資源活用のご提案などを通じて解決をお手伝いします。

緩和ケア外来の受診手順 主治医やかかりつけ医からの依頼を受けて、患者さんやご家族が希望される場合に受診できます。

がんサポート看護外来

がん患者さんやご家族のお話を伺い、抱えている苦痛や不安が和らぐよう、主治医と連携しながらサポートしていきます。主治医との面談に同席し、病状の理解や課題を一緒に考えていきます。必要に応じて関係職種や各専門家へ橋渡しします。

がんゲノム医療外来

2019年にがんゲノム医療連携病院に指定されて以降、院内外よりがんゲノムプロファイリング検査をお引き受けしております。さらに2024年11月にエキスパートパネル実施可能がんゲノム医療連携病院に指定され、時宜を得た効果的ながんゲノム医療を目指してチーム一丸となって取り組んでいます。遺伝性腫瘍についてもがんゲノム医療外来で遺伝カウンセリングを含めサポートしています。がんゲノム医療を希望される場合は、主治医にご相談ください。

■緩和ケア外来・がんゲノム医療外来・がんサポート看護外来 担当表

	診療日・受付時間
緩和ケア外来・ がんゲノム医療外来	平日(当院休診日を除く) 月～金曜日/9時30分～11時30分
がんサポート 看護外来	平日(当院休診日を除く) 月～金曜日/9時～17時

《院外からの予約・お問い合わせ》

- 平日/8時30分～18時30分
- 土/8時30分～13時

長野赤十字病院 地域医療連携室

TEL.026-226-3687(直通)

*痛みや不安でお困りの方は左記の限りではありませんので、お気軽にご相談ください。

がん相談支援センター

患者さんやご家族の、がんに関する様々な相談に応じるとともに、がんに関する一般的な医療情報や当院のがん診療に関する情報の提供、妊孕性温存、セカンドオピニオンに関する相談にも応じています。当院は国立がん研究センター認定がん相談支援センターに認定されています。ハローワークや社会保険労務士、産業保健総合支援センターとも連携し、仕事がかしや仕事と治療の両立支援も行っています。相談は無料、当院を受診していない方もご相談いただけます。相談で知り得た内容は、相談者の同意なく医師を含む第三者に伝えることはありません。

がんに伴う様々な悩み、不安は、がん相談支援センターにご相談ください。

相談対応時間 9:00～17:00 ☎026-226-4131(代表) ☎026-217-0558(がん相談専用)

セカンドオピニオン外来のご案内

主治医からの情報をもとに、当院の各分野の専門医が担当します。

- 診療行為(検査、治療)は出来ません。
- 当院での検査や治療を目的としている場合は対象になりません。
- 費用は、保険外診療のため自費となります。
60分まで10,000円(消費税別)、延長の場合は30分を限度とし5,000円(消費税別)を加算します。
- 時間は、60分以内を原則とし、医師の事前資料確認及び報告書作成の時間を含みます。
- 完全予約制です。

《セカンドオピニオンをお受けできない場合》

- ・主治医に対する不満、医療過誤および裁判係争中に関する相談
- ・医療費の内容、医療給付に関わる相談
- ・死亡された患者さんを対象とする場合
- ・相談内容が当院の専門外である場合
- ・治療結果の判断を目的とする場合
- ・交通外傷・労災保険の患者さんに関する相談(当院では担当窓口が別にあります)
- ・現在診療中の主治医からの紹介状が無い場合
- ・予約外の場合(改めて予約をお取ります)

セカンドオピニオン外来申込手順

- ①患者さんがセカンドオピニオンを希望されましたら、主治医からの紹介状と必要な資料(画像情報等)をご用意ください。
- ②医療機関様は紹介状のファックス送信をお願いします。
- ③担当看護師が患者さんの現在の状況などにつき情報を聴取させていただきます。
- ④担当科医師とスケジュールを調整し、当院より患者さんへ電話にて予約日時をお知らせします。

セカンドオピニオンの申込について

☎026-226-4131 (代表)月曜日～金曜日 9:00～16:30

FAX.026-226-6114 (がん相談支援センター内)

セカンドオピニオンを受けたい旨をお伝えください。

患者会との連携

当院の患者会は自主的に運営されており、会の開催時は関連診療科の看護師が参加し、病院との連携をとっています。その他、希望に応じてがん相談支援センターが院内外への橋渡しを行っています。患者会は、福寿草の会(乳がん・婦人科がん)、信鈴会(喉頭摘出)、たんぼぼの会(血液疾患)があります。

患者会に関するお問い合わせは、がん相談支援センターまでお願い致します。

《お問い合わせ》 ●平日/9時～16時30分 ●TEL.026-226-4131(代表)

市民公開講座

がんに関する治療やケア、心理社会的問題など、さまざまな問題に対する解決の糸口になることを期待し、地域の皆様を対象に市民公開講座を開催しております。

専門医や専門家による講演など、興味を持って聞いていただける内容となっております。

公開講座のスケジュールに関しましてはホームページをご覧ください。



院内がん登録

院内がん登録は、病院で診断、治療されたすべての患者さんのがんについての情報を、病院全体で集め分析することであり、自院におけるがん診療の実態を把握し、がん医療の質の向上とがん患者さんやご家族の支援のために役立ちます。

また、国や都道府県等に情報を提供することにより、がん対策の企画立案やがん医療の分析および評価を行うことに活用されます。

当院の院内がん登録件数や情報利用、提供等に関しましてはホームページをご覧ください。



在宅支援

訪問看護ステーション

訪問看護ステーションでは、かかりつけの医師の指示を受け、病気や障害を持って家庭で療養されている方と介護されている方が、住み慣れたご自宅で安心して療養生活が送れるよう、訪問看護師がお宅までお伺いし、「看護」をご提供いたします。かかりつけの医師や、ケアマネージャーまたは、直接、訪問看護ステーションにご相談の上、お申込みください。

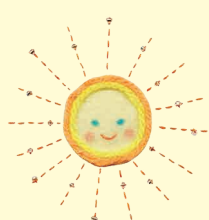
訪問リハビリテーション事業所

治療等に伴う体調不良や活動性低下により身体に様々な問題が生じます。訪問リハビリでは自宅に訪問し利用者様の身体の状況に合わせリハビリを行い、必要であれば環境整備、自主トレーニングの指導も行っていきます。

介護保険をお持ちの方は担当ケアマネージャーさんへ、そうでない方はかかりつけの医師にリハビリの希望をお伝えください。

居宅介護支援事業所

看護師と介護福祉士の2人のケアマネージャーが、要介護認定を受けられた方(要介護1～5)の居宅介護支援計画(ケアプラン)作成を行っています。利用者様とご家族にとってより快適な在宅生活が送れるよう、利用者様の立場に立ったケアプラン作りを目指しています。



サロン陽だまり

がん患者さんご本人と患者さんを支えるご家族のためのサロンです。がんによって感じるようになった悩みやつらさを、同じ思いを持つ人々が集まり話すことで孤独感を緩和し、自分らしい生活を取り戻すことを目的としています。スタッフは、がんの経験者であるボランティア(ピアサポーター)と当院の看護師です。

第1回 月曜日(当院休診日を除く) / 14時～15時
場所:がんサポートセンター内(直接会場にお越しください。)

※開催については院内のポスターかホームページでご確認ください。



からだの図書館

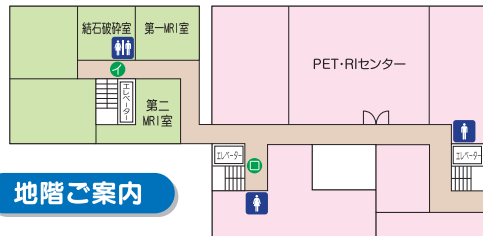
医学関係書だけでなく、小説や実用書も取り揃えております。どなたでもご利用いただけます。

開館日・時間 月～金曜日(第4月曜日 午後および当院休診日を除く)
9時30分～17時(第4月曜日は9時30分～12時まで)



外来案内図

1階ご案内



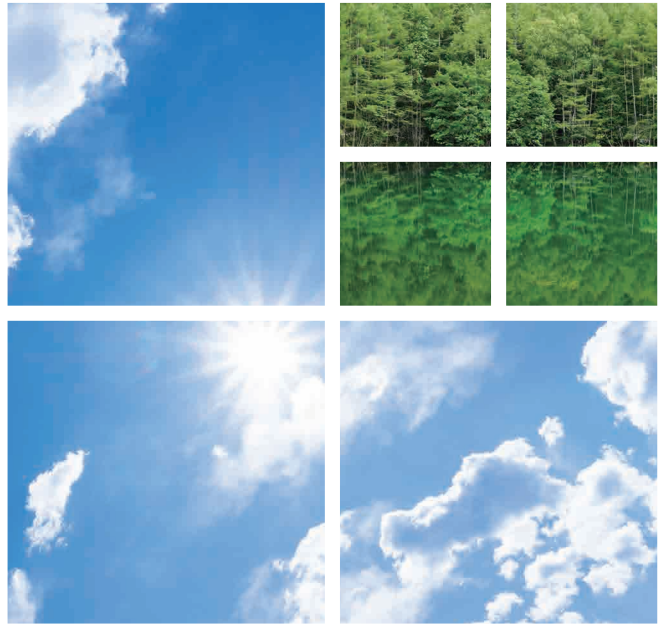
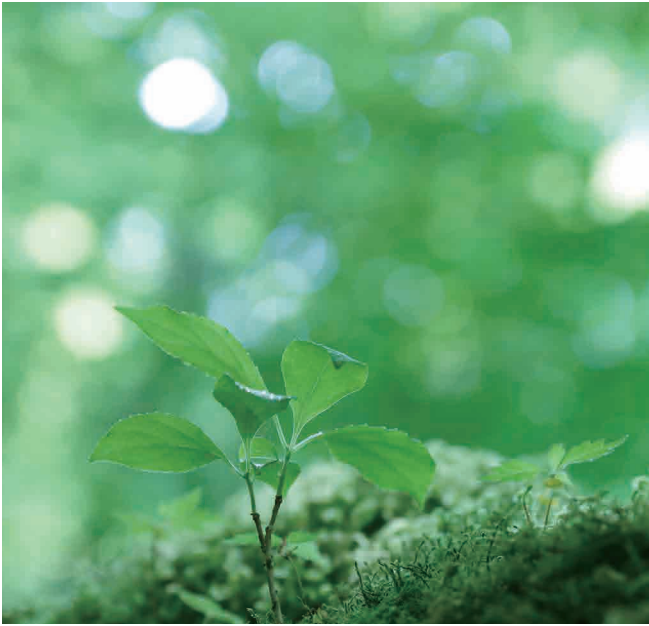
2階ご案内



※南新棟1階へお越しの際は、南新棟2階の階段、又はエレベーターをご利用ください。



院内案内図はこちらのQRコードからWEB上でもご確認頂けます



長野赤十字病院は地域がん診療連携拠点病院です。

- 上信越自動車道・須坂長野東インターより車で約20分 ・長野インターより車で約15分
- JR長野駅東口より車で約5分

長野赤十字病院

〒380-8582 長野市若里五丁目22番1号
TEL.026-226-4131(代表) FAX.026-228-8439
<https://www.nagano-med.jrc.or.jp>

地域がん診療連携拠点病院



がんに関することならなんでもお気軽にご相談ください。

がん相談支援センター

受付時間 平日/9時~16時30分
※相談対応時間は17時まで

相談方法 **TEL.026-217-0558** (相談専用)